

クリエイティブ オフィス提案

まずは自社用に第1号

ペースや畑などを設けるとともに、完成後はサテライトオフィスとしても活用する考えだ。

露天風呂やいろいろ、バーベキュース



新築やオフィスリフォームを設計から施工まで行う吉武工務店（東大阪市、吉田丈彦社長）は、社員が健康的で快適に過ごすことができるオフィス空間を「クリエイティブオフィス」を東大阪の中小企業を中心に提供している。

女性社員が働きやすい空間、たばこを吸わない人もともに過ごせる喫煙室、コミュニケーションが深まる社内バーなどを、同社の強みである天然素材を生かす技術を用いて実現。企業の人手不足が社会問題になる中で、女性活用や新規採用、離職防止に役立つ空間として提案している。

古民家を再生して社員とのコミュニケーションを促進し、創造性を高める保養所をつくる「古民家再生保養所事業」も進めている。（木下功）



女性受け入れへ整備



最初の主となった2017年入社の方保葵さんは「気分転換でき、また頑張ろうという気持ちになる。女性を受け入れる体制をつくってくれていたことがありがたい」と話す。



吸う人吸わない人が交流

喫煙室「情報喫茶室」

煙の流れを工夫

換気され、人に煙が流っている。やりフレツ天然木を使用に加え、にも配慮し

たばこを吸う人と吸わない人がともに休憩でき、コミュニケーションを深められる吉武工務店の喫煙室「情報喫茶室」＝写真。2014年11月から販売を開始している。

エアコンの風の流れと灰皿の位置を工夫することで、たばこの煙がすぐに換気され、たばこを吸わない人に煙が流れない仕組みになっている。壁や床には、消臭やリフレッシュ効果の高い天然木を使用。受動喫煙の防止に加え、室内にもこもる臭いにも配慮している。

吉武工務店 吉田丈彦社長



自社での実践を基に「対話が増え、創造性を豊かにするオフィス空間を提案する」と話す吉田社長

「**自社を変えたい**」がきっかけ

「クリエイティブ オフィス」を提案する
きっかけと狙いは。
自社に問題を感じて
いた。価格競争で負け
ており、下請けではな

く、エンドユーザーにコミュニケーションがくりたいと思っ
て、直結するよう商品を区別化することが必要だ
った。新卒が採用できず、中途入社社員も離職者が多
かった。私
もどつせすべに諦めるのではという目で見
ていた。会社を変えてきたかった。吉武には自然素材を使
い、木のすばらしさを伝える技術がある。この技術を使
ってオフィス空間を
変えることで、社員の
――なぜ古民家再生な
した。

2013年から毎年、大卒者を採用でき
ている。平均年齢も56
歳から38歳へと若返っ
た。社内でも何か面白
いことをやろうとい
う、社員の風潮が高ま
っている。

――導入による自社の
伝統建築を残し、自社
の技術を向上させる意
味もある。第1号案件
は全くくぎを使ってい
ない、すごい技術の古
民家。まずは自社で経
験した上で中小企業に
提案し、社員とのコミ
ュニケーションや創造
性を高めるサポートを
したい。

納入事例

ミーティングに
無料バーにも



面談や懇親に活用

本社2階に設けられた和の空間＝写真。目標の達成状況などを確認する社員との面談の場や、社員間の親睦の場として使用されている。落ち着いたのでコミュニケーションが深まるという。



鈴木製作所(東大阪市)の「和の空間」



冷たく硬い金属を扱う工場の中で存在感を示す温かみのある木の扉＝写真④。溶接・切削加工業務を行う鈴木製作所（東大阪市）が、吉武工務店の提案で導入した「クリエイティブオフィス」で、「社内でスイッチを切り替えられる和の空間」＝写真⑤＝を実現した。

毎朝のミーティングのほか、持ち回りの社内マスターによって月2回、社員向け無料バーをオープン。海外からの工場見学もあり、社内外とのコミュニケーションの潤滑油として機能している。

真④—を実現した。

毎朝のミーティングのほか、持ち回りの社内マスターによって月2回、社員向け無料バーをオープン。海外からの工場見学もあり、社内外とのコミュニケーションの潤滑油として機能している。